2017年12月
(No.33)

あこう社協だより

障がい者週間（12月3日～9日）特集
障がいを持ったアスリートたち ……2P
「助けあいの輪」が広がっています ……5P
平成29年度 福祉作文入選者決定!!……6P
まち発見!あこう福祉ニュース ……9P
シリーズ　知っていますか?社協の事業
～ 移送サービス事業 編～ …… 10P
（サロン紹介）朝日サロン …… 11P
ちょっといい話
あなたの地域をあたたかく 歳末たすけあい運動… 12P

10月28日（土）～30日（月）にかけて、「第17回全国障害者スポーツ大会（愛顔つなぐえひめ大会）」が開催され、兵庫県代表として出場した枝川哲也さんが、陸上競技（身体1部）1500m・200mで金メダルを獲得しました。

枝川さんは、2020年東京パラリンピック出場を目指し、日々練習に励んでいます。ぜひ皆さんで応援していきましょう！

「あこう社協だより」は、赤い羽根共同募金の配分金で作成しています。

障がい者週間（12月3日～9日）特集

障がいを持ったアスリートたち

２０２０年に開催される東京オリンピック。その直後にパラリンピックが開催されることはご存知ですか？
パラリンピックとは、障がい者を対象とした『もう一つのオリンピック』と呼ばれ、オリンピック同様、世界各国から選手が派遣されています。
先日行われた「第７２回国民体育大会（えひめ国体）」の後にも、「第１７回全国障害者スポーツ大会」として、さまざまな競技が行われました。今回の特集では、赤穂市から兵庫県代表選手として派遣された３名の方に、お話を聞きました。

障がい者スポーツとは

第二次世界大戦後、戦争で障がいを負った軍人たちのリハビリテーションの補助的な方法として、スポーツが広がっていったと言われています。例えば、車いすテニスではツーバウンドのボールまで打ち返していいなど、障がいに配慮した形でルールが作られています。

全国障害者スポーツ大会とは？

障がいのある選手が競技などを通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人々が障がいに対する理解を深め、障がいのある人の社会参加を推進することを目的として開催される、国内最大の障害者スポーツ大会です。

大会は3日間行われ、全国から約5 ,500人が参加し、個人競技6競技、団体競技7競技およびオープン競技が実施されます。

第17回大会
愛媛県イメージアップキャラクター
『みきゃん』

◆ 個人競技（6競技）

陸上競技（身・知）、**水泳**（身・知）、**アーチェリー**（身）、**卓球**（身・知 ※**サウンドテーブルテニス**（身）含む）、**フライングディスク**（身・知）、**ボウリング**（知）

◆ 団体競技（7競技）

バスケットボール（知）、**車いすバスケットボール**（身）、**ソフトボール**（知）、**グランドソフトボール**（身）、**フットベースボール**（知）、**バレーボール**（身・知・精）、**サッカー**（知）

（身）… 身体障がいの方が出場できる競技
（知）… 知的障がいの方が出場できる競技
（精）… 精神障がいの方が出場できる競技

練習を積み重ねて世界を目指す

陸上競技［身体1部］出場（1500m／200m）
枝川　哲也さん（南野中）

生まれつき両足にまひがある枝川さんは、中学生の頃にスポーツを始めました。「大田俊也先生（現有年中学校長）との出会いがきっかけで、水泳を始めました。その後、大学1年で国体に初めて出場し、50mと100mで当時の大会記録を出すことができました」

その後始めた身体障害者野球では、車いすの方はキャッチャーがほとんどでしたが、「どうせなら、人と違うことに挑戦したい」と思い、ピッチャーとして練習を始めました。その結果、車いすの選手では初めて、甲子園のマウンドにも立ちました。

陸上競技を始めたのは、今から約4年前。ピッチャーとしてスタミナ強化に励むために走り始めました。「レーサー（陸上用車いす）を購入し、いきなりフルマラソンに挑戦しました。普通の車いすでハーフマラソンを走ったことがあったので、『レーサーがあればフルマラソンなんて余裕だ』と考えていました。結果は、何度も棄権しようと思いながらも、何とか完走。1位とは1時間以上も差がありました」

パラリンピックを目指すきっかけとなったのは、それから2年後。あるアーティストのライブに出かけた時、会場全員が日本国旗を振っているのを見て、『障がい者スポーツが注目されるのは、東京パラリンピックしかない。自分も多くの人に応援してもらいたい』と感じました。それから少しずつ練習量を増やし、今では、毎週火・木の午前1時45分に起床し、唐船周辺を23km走ってから、会社（株式会社神戸製鋼所加古川製鉄所）へ出勤する生活を続けています。それに加え、土曜日には46km、日曜日には友人と23km走る生活を続けています。

練習に打ち込む理由。それには、大リーグなどで活躍するイチロー選手の存在があります。「小学校の頃に、当時日本記録となったシーズン210安打を放ったことがニュースになり、イチロー選手を知りました。そのインタビューで『努力すれば夢はかなう』と言っていたことが、今でも心にずっと残っています。今大会の記録には満足していません。努力を続け、夢である東京パラリンピックの切符をつかみたいと思います」

→各学校で行われている福祉体験学習では、車いす学習の講師として、夢を持つことの大切さを伝えています。

県下から多くのパラリンピック選手を送り出したい

フライングディスク［身体］出場
（ディスタンス／アキュラシー セブン）
木村　佳史さん（砂子）

木村さんは、29歳の時に交通事故に遭い、左膝上から下に義足をつけて生活しています。事故後、それまでスポーツマンだったことから、体格を生かして砲丸投げなどの陸上競技に取り組む傍ら、赤穂市身体障害者福祉協会会長や兵庫県障害者スポーツ協会の理事などを務めています。「私が競技を始めた当時、フライングディスクの参加者はとても少ない状態でした。そこで、『少しずつ広めていこう』と力を入れていくことになり、私自身も競技に参加するようになりました」

今では競技人口も増加し、県内の大会には、さまざまな年齢・障がいのある方が参加しています。「この競技の魅力は、誰でもできることだと思います。目標に向かって、ディスクを投げる、誰でもできて、同じ快感を味わうことができると思います」

木村さん自身も練習を重ね、今回初めて全国障害者スポーツ大会へ出場することになりました。「今までは、県内の大会運営などをしてきましたが、選手として出場したことで、県のサポート体制で足りない部分が見えてきました。例えば、パラリンピックに出場する経費は、ほとんどが選手の実費負担です。そういったときに、どのような支援ができるのか。2020年の東京パラリンピックに向けて、サポートを強化していきたいと思います」

支えてくれる仲間がいるから競技を続けられる

サウンドテーブルテニス（STT）
［女子2部（年齢区分）］出場
清水　幸代さん（上仮屋南）

2歳の時、麻疹が原因で視力を失った清水さん。中学生の時、先輩がプレーしていたことに憧れて、STTを始めました。「STTの魅力は、音だけを頼りにして、球のスピードや方向を自分で確かめながらプレーできるところです。思い切りラケットを振り、しっかりと球を打ち返すことができたときは、とても気持ちいいです」

市内では、赤穂地区体育館と福祉会館に、STT専用の卓球台が2台ずつ設置されており、毎週水曜日に、市内外約10～15名の当事者が集まり、練習に励んでいます。

「STTは個人競技ですが、一人でやるものではありません。プレーをする仲間、審判、準備や片付けを手伝ってくれるボランティアなど、多くの人の協力があります。赤穂市は県内でも1位・2位の練習環境があります。そんな環境に恵まれ、とても感謝しています」

今回初めて出場した全国障害者スポーツ大会。いつもと違う雰囲気だったこともあり、本来の実力は出しきれませんでした。「STTは、パラリンピック種目ではないため、今大会が一番大きな大会です。まだまだ認知度も低く、県大会の成績が良くても、男女隔年でしか出場できないなど、制約もあります。もっと競技について知ってもらい、赤穂から一人でも多くの方が、大会に出られたらいいなと思います。市民の方も、私たちのことを知ってもらい、練習会に参加してもらいたいです」

競技説明

フライングディスク

ディスタンス	アキュラシー
ディスクを投げて、その距離を競います。	標的の輪をめがけ、10回連続投げて通過した回数を競います。輪までの距離が5m（ファイブ）と7m（セブン）の2つに分かれています。

サウンドテーブルテニス（STT）

卓球とは違い、ボールを転がして行う競技です。球には金属球が入っており、転がると音がします。その音を頼りに、ネットの下をくぐらせながら、球を打ち合います。

「助けあいの輪」が広がっています

～パートナーサービスの取り組み地区から～

私たちの暮らす地域では、人間関係の希薄化が進み、社会との関わりが少なくなり、地域の中で孤立していく人（世帯）が増えてきています。

誰もが近所づきあいや住民同士のつながりの大切さを認識する一方で、きっかけがなかったり、生活課題を抱えていても相談できる相手がなく、孤立を深めてしまうことがあります。

そこで、生活上のちょっとした困りごとや見守り活動など、今、近隣同士の支えあいや助けあいの仕組みが必要と言われており、社協では自治会規模で、住民の抱える生活課題を住民同士で支えあう仕組みづくり（パートナーサービス事業）を推進しています。今回は、平成23年より活動している上仮屋自治会の取り組みについて紹介します。

上仮屋たすけあいサロン から 上仮屋暮らしサポート に名称変更！！

世話人会の様子

上仮屋暮らしサポートは、自治会三役・民生委員・地域福祉委員・人権擁護委員など各種団体が中心となり、上仮屋自治会内の困りごとの解決に取り組んでいます。

気軽に「助けて」が言えて、「私でよかったら」「こんなことでよかったら」と、力を貸し合える関係や、今ある近所づきあいを大切にしながら、近隣の支えあいの復活を目標としています。

庭の草取りや病院の付き添い、網戸の貼り換えなど、個人からの依頼はもちろん、月2回、城西小児童の下校時の見守りも行っています。

２カ月に1回は、上仮屋暮らしサポートの世話人が集まり、活動報告や日常の気になる事を話し合い、情報が共有できる場を設けています。

利用会員の声

上仮屋在住
ひとり暮らし女性（80代）

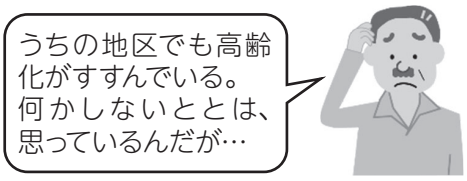
普段は一人で通院していますが、検査の時など、一人では不安な時に付き添いをお願いしています。地域の中にこのような仕組みがあるのは、助かるし心強いです。

協力会員の声

横川昭男さん（75）

手先が器用で、家の網戸の張替えをしている横川さん（右）。世話人である榊　敏さん（左）から声がかかり、「一緒の地区に住んでる人に喜んでもらえるなら」と、活動に協力しています。
地域には、たくさんの特技を持った方がいらっしゃいます。

あなたの地区でも、地域内での助けあい活動をはじめてみませんか？



高齢化が進み、人間関係が希薄になっている今だからこそ、「誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり」を地域全体で考えていく必要があります。これから住民同士の見守り・助けあい活動などを考えていこうとする自治会の皆さん、ぜひ一度社協へご連絡ください。

問い合わせ先　　赤穂市社会福祉協議会　　☎42－1397

平成29年度 福祉作文入選者決定！！

身近な福祉活動をテーマにした作文を募集しましたところ、小学生、中学生、高校生、一般の方より、計578点の応募をいただきました。

慎重な審査の結果、次のみなさんが入選され、12月9日（土）に開催の「障がい者週間ともに考える市民のつどい」の席上で表彰されます。

（各部門大賞・特選・入選の方のみ。※敬称略）

【小学生の部】

大賞
永谷　昂己（御崎小学校5年）

特選
濱田　七海（赤穂小学校4年）

入選
金谷　美玲（赤穂小学校6年）
白井美優菜（尾崎小学校5年）
吉村　優心（赤穂小学校6年）
山脇　千和（城西小学校6年）
河部　柚妃（塩屋小学校6年）
水野　天舞（赤穂西小学校6年）
鷲尾　陽向（尾崎小学校6年）
平井　伽奈（御崎小学校6年）
玉石　瑠花（坂越小学校4年）
多田　慶樹（高雄小学校6年）
吉田　優月（有年小学校5年）
陰山　麻愉（原小学校5年）

佳作
備生　遥貴（赤穂西中学校1年）
江見　優佳（有年中学校3年）
廣村　英（赤穂中学校3年）
清水　咲来（赤穂西中学校3年）
是兼　綾乃（赤穂東中学校1年）
村山　京香（坂越中学校2年）
岩崎　颯人（有年中学校1年）

【中学生の部】

大賞
浜本　実季（赤穂西中学校3年）

特選
松本　夢朋（赤穂中学校2年）

入選
関口　千佳（一般）
谷口　歩夢（赤穂高等学校1年）
山田　彩依（赤穂高等学校1年）
藤原　彩（赤穂高等学校2年）
山田梓依華（赤穂高等学校2年）

佳作

【高校生以上の部】

ご応募いただいた皆さまには、深く感謝申し上げます。

入賞作品は福祉作文集にまとめ、市内の学校や各福祉施設にお届けするほか、社協でも配布し、広く福祉活動の場で活用させていただきます。

◆小学生の部　大賞◆

『にん知しょうサポーター』

御崎小学校5年　永谷 昂己

ぼくは、おばあちゃんと、夏休みに、にん知しょうサポーター養成講座に参加しました。日本では、段々お年寄りが多くなってきていて、ぼくの町内も、一人暮らしのお年寄りが住んでいるので、自治会で、一人暮らしでもまわりの人が手助けして、みんなが住みよい町になるように、いつも話し合っていると、言っていました。

それで、お年寄りになって、困ってしまう病気に、にん知しょうという、脳の病気があると、言っていました。その病気のせいで、一人で暮らしにくくなる人のために、みんなが、少しでも、そのにん知しょうという病気の事を、正しく知って、病気になって、困っている人を助けるには、どうしたら良いかという、勉強をしました。

にん知しょうは、その病気になっている事を、自分がわからない事が多いようです。健康しん断で、見つけられない病気だと、言っていました。

ガンなどの病気は、食べられなかったり、やせたり、いたかったりするので、自分でも、よくわかるけれど、にん知しょうは、自分では、気がつかないので、ひどくなってから、お医者さまに行くので、治りょうがおそくなるそうです。

にん知しょうになると、急にかなしくなったり、すごくおこりっぽくなったりして、まわりの人が、この人いやだ、つき合いにくい人だと思うので、困っているのに、まわりの人に気がついて助けてもらえない事が、一番困る事だと、言っていました。

夜がねむれなくて、うろ

うろしたり、ご飯を食べたのに食べた事を忘れて、また食べたくなったり、ひどくなると、計算ができなくなったり、出かけたら家に帰れなくなるし、自分の名前や住所も、忘れてしまうそうです。

だから、町のみんなで、にん知しょうになって困っている人がいたら、やさしくしてあげるために、どうしたらいいか、いろいろな人の体験の話を聞きました。

ぼくにできそうな事は、外でお年寄りが、「キョロキョロ」して、何度も同じ道を通っていたら、家がわからなくなって、困っているかも知れないので、声をかけて、自分の家がわからない人だったら、交番に連れて行ってあげるか、けい察官を呼んできてあげたいと思います。

急に、おこったり、かなしくなる人にも、ゆっくり話を全部聞いてあげる事を、できたらいいなと思います。

にん知しょうという病気が、正しく理解されていなかったころは、病気になったら、家から出たら帰れなくなるから、絶対外に出てはいけないと、言われていたけど、今はちがいます。外に出て、気分を良くする事がとても大事だから、どんどん、にん知しょうの事がよく分かってきて、もっともっと良いお薬ができるといいなと、思います。

それまで、みんながにん知しょうの病気の、正しい知識をもって困っている人を、助けてあげられたらいいなと、思います。

ぼくも、町の人と同じように、ぼくにできるサポートをしたいです。そして、にん知しょうでも、不安にならずにくらせる町に、ならなくてはいけないと思います。

◆中学生の部　大賞◆

『命ある限り』

赤穂西中学校三年　浜本 実季

「余命一ヶ月。今年の正月は越せそうにありません。」

祖父が脳梗塞で倒れてから一年余り、病院や介護施設でずっと元気になるように頑張ってきましたが、先日の8月頭、病院の先生からこう告げられました。

女の子の孫は私だけなので、祖父は小さい頃から特にかわいがってくれました。「スイカ食べるか？」「イチゴいっぱいできとうから取りにおいで」「運動会頑張ったか？」「おもちゃ買ってあげよう」いつも優しい笑顔で気にかけてくれました。そんな祖父が昨年、突然歩くことができなくなりました。何とかしてあげたいけれど、何もできない・・・。昨年、介護施設に入所していた時、その場所が家の近くだった為、学校の帰りに祖父の様子を見に行きました。「おじいちゃん！きたで！」と呼びかけても、私の事が分からないのか、返事もなく、表情も変えず、窓の外をずっと見ていました。「うれしくないのかな？私のこと、もう分からへんのかな？」とても寂しい気持ちになりました。お父さんは「それは違うで。脳の手術をしたから、調子がいい日とあまりよくない日があって、自分の意思に反して身体がいうことをきいてくれへんから、おじいちゃんも苦しいんやで」「そうやったんや・・・。おじいちゃんもつらいやろな・・・。」そんな日が続きました。

今年4月には施設を退所し、祖父の自宅に戻れることになり、祖父はとても嬉しそうでした。「笑顔が増えるかな？」「これから、良くなっていけるといいな！」そう思っていましたが、そう長くは続きませんでした。

先日、容態が悪くなり、救急車で病院に運ばれました。あと一歩遅ければ間に合わなかったそうです。

今はほとんど会話もできない状況ですが、最近、なんとか聞き取れる声を振り絞って、「死にたい」と言っているそうです。でも、この前、病院の先生から家族に対して、「延命治りょうされますか？」ときかれた時に、「おじいちゃんの意見も聞いてみよう」と祖父に聞くと、「自分では決められない」と言ったそうです。

きっとおじいちゃんは、自分一人ではご飯を食べることも、着替えることも、おふろに入ることも、歩くこともできないことで、周囲へ迷惑がかかるのではないか、自分には生きたいと言える権利がないのではないかと、毎日看病してくれている家族に気をつかってそう言ったんだと思います。それを聞いて私は、本当は命ある限り精一杯生き

たいんだと思いました。

生きたくても生きられない人はたくさんいて、自ら命を絶つ人もまた、たくさんいます。そんな耳をふさぎたくなるようなニュースを聞く度に、とても悲しくなりますが、それが今、私の目の前で起きようとしています。

人はいずれ誰でも年をとります。高齢化社会が進み、赤穂市でも65才以上の高齢化率が30％を超えているそうです。これからますますこの傾向は強くなると言われています。でも、長い年月を、苦労や努力と向き合いながら精一杯生きてくださったおかげで、今の幸せがあることを忘れずにいたいと思います。

そして、この世に生まれてきたもの全てに、自分の意思で生きることを決めていける権利があると思います。

自由に動けなくなった時に、人としてのほこりを持って、満足できる最期を迎えられるように考えていきたいです。

生きることに「自分では決められない」と言ったおじいちゃんのように、自己決定権のない社会にならないように、高齢者には今までの感謝の気持ちで、本人の希望をできるだけ叶えられるように努力していきたいです。

いずれ私達もむかえる高齢社会だから。

◇◇◇

の小さな抵抗の声がもれました。もちろん相手方には聞こえません。けれど、娘に「お母さん、ありがとう。私な、ずっと嫌な気持ちやったんや。」と、言われました。見えにくくても、感じるのです。

娘は天真爛漫で、誰とでも話をし、あいさつをします。それが娘の自慢な所です。周りが見えにくいためか、声が大きく、自分の意見を物怖じせずに話します。そこも良い所でもあるのだけれど、そんな娘だからこそ、支援を特別扱いと妬まれる、蔑まれる。恵まれているからこその、特別扱いの悩みもあります。

普通で、ただ普通に。けれど困った時は少し助けてやってほしい。それを、伝えることも娘に自分を卑下せずに、それでも感謝の気持ちを忘れず生活することを教えるのも、とても難しく、私自身が、たくさん娘に支えられ周りに支えられ、生活している事を実感します。骨折して包帯を巻いている人、外国の方がいたら、ついつい見てしまう。私も、同じかもしれません。

娘のおかげで、色んな事を思い気付かされます。強く生きてほしい。と弱い母が思います。自分一人じゃない。ということも、娘のおかげでよく感じます。

たくさんの試練の中、いつも笑顔の娘に、勇気と元気をもらいます。

一見めだってみえる娘の、弱視という分かりづらい障がいの手助けを周囲に受けることを当たり前と横柄には思っていませんが、上からではない配慮はとてもありがたく感じます。そのために、少しでも、一人でも多く娘のことを知ってほしい。と思います。

天真爛漫でやさしい心の娘の笑顔が、ずっと続きますように。

「お母さん、きれいな夕焼け！」と、教えてくれる娘の心がそのままでありますように。

まち発見！ あこう福祉ニュース

「笑顔あふれる交流の場」 11月23日（木） 三世代交流事業

天和でふれあい交流会

前日の雨により、グラウンドゴルフから室内で楽しめるカローリング大会に変更となりましたが、8チームに分かれた約60名の参加者は、ストーンの行く先に一喜一憂しながら、交流を深めました。

家族4人で参加した平岡ゆりさんは、「地域の人とより仲良くなれました。（地域にこういう行事があることで）子どもの成長を、地域の方に見守ってもらえます」と話していました。

駅北自治会

三世代交流もちつき大会が開催され、約100名が参加し、つきたての餅に、きなこやあんこをつけて、みんなで頬張りました。

久しぶりに杵を握った有年孝さん（84）は、「しんどかったが、私たちの年代にはなつかしく、子どもたちには、新鮮な機会になったと思う」と笑顔で話していました。

当日は、赤穂小学校金管バンドクラブも演奏にかけつけ、心も体も温まったひとときになりました。

シリーズ 知っていますか？社協の事業

～移送サービス事業　編～

移送サービス事業とは？

○対象者
市内在住者で、在宅生活の移動で車いすまたはストレッチャーを必要とする方です。

○実施日
月曜日～土曜日
午前８時３０分～午後５時１５分
（日曜・祝日・年末年始は休みです）

○利用範囲
原則として、市内にある病院に行くことができます。

○利用料金
走行距離にかかわらず、１回往復１，０００円（片道のみも同額）

○使用車両
車いす・ストレッチャーのまま乗車できるリフト付き車両で対応します。

○利用までの流れ
①事前に利用登録をしていただく必要があります。「移送サービス利用申込書」を社協へ提出してください。
②担当職員が自宅を訪問し、事業内容や車の乗降場所などの打合わせを行います。
③利用が許可されると、「利用決定通知書」を送付します。これで登録が完了し、利用希望日の１週間前までに、社協へ電話で予約していただきます。
※1週間前を過ぎると、予約できない場合があります

○その他
・この事業は、移送サービスボランティア「てんとうむし」の協力で実施しています。ボランティアの活動は、戸口から戸口までになりますので、自宅や病院の中には入ることができません。
・車両には、利用者のほかに介助者（家族など）の同乗が必要です。

移送サービスボランティア「てんとうむし」会員募集中!!

移送サービスボランティアで、新しいことを始めてみませんか？
活動は、1人が車の運転、もう1人が車いす介助の2人一組で行います。初めての方でも安心です。忙しい方も、空いた時間で活動できます！
下記の講座を、ぜひ受講してください！

移送サービスボランティア実習講座

日　　時：平成３０年１月２６日（金）
　　午後１時３０分～３時３０分
場　　所：福祉会館　２階研修室
対　　象：市民１０名
受 講 料：無料
申込締切：１月１９日（金）

移送サービスの利用・上記講座の申込み、お問合せは、社協まで（☎４２－１３９７）

～サロン紹介～

朝日サロン（御崎）

１１月２５日(土)、枯葉の舞う朝日町集会所で、サロンが開催されました。当日は１７名が集まり、体操をしてからアカペラで歌を歌い、フリースを使ってリース作りをしました。長細く切ったフリース３本の端を持ち合いながら、三つ編みにしました。男性も何度もやり直しながら、納得の１個を作りました。

リース作りの前後には、お茶とお菓子でおしゃべりを楽しみ、「最近寒くなってきたけど、調子はどう？」「かわいいリースができたわ！どこに飾ろうかな」など、賑やかに話していると、あっという間に終わりの時間になりました。

参加者は、「今回で２回目の参加です。今までは、地区の回覧でチラシを見ていましたが、実際に参加してみると、特に高齢者にとっては、こういう場はありがたいです。みんなで話したり、こうやって工作ができるのも楽しいです」と話していました。

朝日サロン
- **日時**：毎月第4土曜日午後1時～3時
- **場所**：朝日町集会所

レクリエーションボランティア養成講座

受講者募集!!

楽しいゲーム、かわいいカード作りの体験をしてレクリエーションを習得できる講座です！！
あそびの『ネタ』を見つけてみませんか？

日　程：第1回目　平成30年　1月10日(水)
　　第2回目　　1月15日(月)
　　全2回
時　間：午前10時～正午
場　所：総合福祉会館　2階研修室
対　象：市民　20名
講　師：(公財)日本レクリエーション協会
受講料：無料
締　切：平成29年12月28日(木)
申込先：赤穂市ボランティアセンター
　　☎42−1397

あなたのやさしさを善意の窓口へ――

善意銀行だより

あたたかい善意をありがとうございました

預託状況（11月1日～11月30日受付分）

●委任預託　　（敬称略）

住　所	預託者	金　額	預託内容
	匿　名	5,000	車椅子借用御礼
	匿　名	2,000	車椅子借用御礼
相生市	妙修寺婦人会	雑巾100枚	福祉のために
加里屋字磯	ダイネン(株)	10,000	大感謝祭売上の一部を
中　広	匿　名	20,000	福祉のために
赤穂市社協職員一同		19,770	しあわせフェスティバル売上金を
赤穂市いずみ会		5,000	しあわせフェスティバル売上金を
	匿　名	50,000	亡夫満中陰志
ボランティアグループてんとうむし		2,282	しあわせフェスティバル売上金を
	匿　名	3,000	車椅子借用御礼
北野中	中島　透	5,000	車椅子借用御礼
	匿　名	30,000	福祉のために

◎善意銀行受付窓口・・・赤穂市社会福祉協議会◎

心配ごと相談所のご案内（12月13日～1月10日まで）

生活をしていると、色々な心配ごとに直面することがあります。その心配ごとを一人で、あるいは家族や身の回りの人と解決できないこともあります。

心配ごとは、一人で抱え込まず、「心配ごと相談所」へ相談してください。

【一般相談】　12月13日（水）　12月27日（水）
1月10日（水）

【弁護士相談】（要予約）　12月20日（水）

【カウンセラーによるこころの相談】（要予約）
12月27日（水）　1月10日（水）

※時間はいずれも午後１時～５時までです。※相談は無料です。

ちょっといい話

◎秋晴れの良い天気の日。生け花の材料を取りに、山道へ散歩に出かけました。鈴の音に振り向くと、おしゃれな殿方に「生け花の材料ですか」と話しかけていただきました。「野ばらの棘は痛いですから、気を付けてください」と言って、別れました。山道で見知らぬ人との出会いは、良いものですね。野ばら、山ぶどう、スミレを持ち帰り、部屋に生けました。

1人秋
ホームおぜんに
おちばおき
（ちえ）

『ちょっといい話』募集

（応募方法）**氏名（ペンネーム）・年齢・性別・電話番号**を明記し、持参・郵送・Eメールのいずれかでご応募ください。200字程度にまとめてください。

※送付先は、下記をご覧ください。

※応募用紙は社協窓口か社協ホームページからダウンロードできます。

12月1日スタート

あなたの地域をあたたかく 歳末たすけあい運動

「歳末たすけあい運動」は、地域住民やボランティア、まちづくり連絡（推進）協議会などの関係機関・団体の協力のもと、誰もが地域で安心して暮らし、あたたかい気持ちで新年を迎えられるよう、住民の参加や理解をいただきながら、福祉活動を重点的に展開するものです。

今年も、「つながり　ささえあう　みんなの地域づくり」をスローガンに行われます。

力と気持ちを込めて
三世代交流もちつき大会

お元気ですか　と
言葉を添えて友愛訪問

歳末たすけあい運動で寄せられた募金は、上記事業のほか、「要保護・準要保護世帯児童生徒お年玉」、「養護老人ホーム・児童福祉施設・障がい者福祉施設（市内）入所者たすけあい金」、「赤穂精華園・さくらこども学園教材費」、「三世代交流事業」、「生活困窮者支援」、「ひとり親家庭ランドセル購入助成」、「ひとり親家庭中学生体操服購入助成」などの事業へ配分されます。29年度は750万円を目標に募金を実施します。

今年も、皆さまのご協力をお願いいたします。

■編集後記■

早いもので、今年のカレンダーも残すところ1カ月となりました。師走の12月は、「あれもこれもしなければ・・・」と、まさに字のごとく走り去るように過ぎていき、心なしか落ち着かないのは、私だけでしょうか。

12月は、歳末たすけあい運動の月間です。地域で暮らす誰もが、安心して新年を迎えられるよう、皆さまの温かいご協力をお願いいたします。（だ）

ご意見・問い合わせは　ホームページもぜひご覧ください！
社会福祉法人 赤穂市社会福祉協議会　〒678-0232 赤穂市中広267番地
電　話　0791-42-1397／FAX　0791-45-2444
E-mail　ako-shakyo@ako-shakyo.jp
赤穂市社協　検索